

## 令和3年度山都地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本町は、阿蘇カルデラ南外輪山と九州脊梁山地に囲まれた自然豊かな中山間地域であり、その環境や気候を活かした農業が町の基幹産業となっている。

今日の農業の現状は、稲作と高冷地野菜を中心にした営農形態の農家が多く、安心・安全でおいしい米づくり、夏秋野菜、畜産を主軸とする経営の発展を基に、需要の動向に応じた生産性の高い農業の実現を目指している。また、近年では有機農産物の生産も増加している。

しかしながら、米の需要減少による米価下落など農業を取り巻く厳しい情勢の中において、農業就労者の高齢化、担い手不足、有害獣被害の増加、耕作放棄地の増加などの問題がある。

担い手の育成や地域の実情に応じた集落営農を導入するなど、各地域の将来を見据えた農業振興を図り、農業生産を維持・発展させていく必要がある。

また、平成28年4月の地震と6月の豪雨により、農地及び農業施設に甚大な被害が生じた。早期の復旧・復興を行うことにより、農業者の営農意識の維持を図り、農業生産を維持して行く必要がある。

### 2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

#### (1) 適地適作の推進

当地域では夏秋野菜を中心とした高冷地野菜の作付けが行われており、産地交付金を活用し当地域における転作作物として適している里芋を重点品目として位置付け、作付を支援する。

#### (2) 収益性・付加価値向上への取組

中山間地としての特色及び有機JAS認証事業者数が全国一であることを生かした農産物のブランド化を進めるとともに、安全安心でおいしい有機野菜は農業所得向上にも繋がるため産地交付金を活用した支援を行い推進していく。

### 3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

適地適作を基本として産地交付金を有効に活用しながら、特に、WCS用稲、飼料作物、野菜等の地域振興作物を転作作物の主体として位置付け、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

担い手については、効率的かつ安定的な農業経営を目指して経営改善に取り組む農業担い手に対する支援を強化する。また、人・農地プランが策定されている地域については、プランの地域営農組織や認定農業者など地域の担い手への農地集積を進めることで、地域農業の担い手の育成と確保を図るとともに持続的な営農体制を確立させる。

施設園芸が行われているような今後も水稲作に活用される見込みがない水田について点検を行い、畑地化の取組の重点支援期間であることを周知し、地域の実情に応じて水田の畑地化を検討していく。

## 4 作物ごとの取組方針等

### (1) 主食用米

前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ米の生産を行う。売れる米作りの徹底によりおいしい米の主産地としての地位を確保する。また、熊本県産の新品種「くまさんの輝き」について、積極的な導入を図るとともに、高冷地に適合する新たな品種開発の支援を行っていく。

県内シェアの約50%を占める粳種子の生産に関しても、さらなる生産者の育成等を行い積極的に推進する。

### (2) 非主食用米

#### ア. 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、飼料用米は重要な転作作物であり、多収品種導入による単収の増と生産コストの削減が重要となるが、本町では、地理的条件等により多収品種の作付けは困難であり、現在は主食用米と同一品種で行っている。

今後、生産者及び集荷団体等と協議を行いながら、本町の気候に合った多収品種の導入を検討するなど飼料用米の作付け推進を図る。

#### イ. WCS用稲

WCS用稲については、今後も生産活動を行う生産者の育成を図り、自給飼料の確保に努め、作付面積の増加に向けた推進を行う。なお、専用品種の導入については、水稻粳種子生産への影響を考慮し、ほ場の固定化・団地化と併せて検討を行っていく。

#### ウ. 加工用米

主食用米の需要減が見込まれる中、地域の担い手による加工用米の作付を支援し、生産の拡大を図っていくこととする。

### (3) 飼料作物

飼料作物については、自家生産と供給契約による取組を推進し、面積の拡大を図る。また、二毛作としての飼料作物（イタリアンライグラス）の作付けも産地交付金で支援し推進していく。

### (4) 高収益作物

夏秋野菜を中心とした高冷地野菜の作付けが行われている本町においては、中山間地としての特色を生かした農産物のブランド化を進め、産地交付金を活用しさらに推進していく。花き・花木、果樹等についても水田の有効利用を図るうえで効果的な作物であるため、産地交付金での支援を行う。

また、産地交付金を活用し当地域における転作作物として適している里芋を重点品目として位置付け作付を支援するとともに、安全安心でおいしい有機野菜の生産についても支援を行い推進していく。

## 5 作物ごとの作付予定面積等

作物	前年度 作付面積 (ha)	当年度の 作付予定面積 (ha)	令和4年度の 作付目標面積 (ha)	令和5年度の 作付目標面積 (ha)
主食用米	1,237.4 5494.1 t	1300.0 6474.0 t	1236.0 6155.2 t	1236.0 6155.2 t
備蓄米	0	0	0	0
飼料用米	1.6	1.6	1.6	1.6
米粉用米	0	0	0	0
新市場開拓用米	0	0	0	0
WCS用稲	63.5	64.0	64.0	64.0
加工用米	0	0	0	0
麦	0	0	0	0
大豆	0.6	0.8	0.8	0.8
飼料作物	95.7	100.0	100.0	100.0
・子実用とうもろ こし	0	0	0	0
そば	0.3	0.3	0.3	0.3
なたね	0.6	0.6	0.6	0.6
高収益作物	74.1	75.9	76.0	76.0
・野菜	70.0	70.0	70.1	70.1
・花き・花木	5.0	5.0	5.0	5.0
・果樹	0.6	0.6	0.6	0.6
・その他の高収益 作物	0.3	0.3	0.3	0.3
その他	0	0	0	0
畑地化	0	0	0	1

※ 主食用米の当年度、令和4年度、令和5年度の目標値において使用した単収は 498kg/10a

## 6 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	飼料作物（イタリアンライグラスのみ）	飼料作物二毛作助成（二毛作）	取組面積（ha）	（R2年度）77.1	（R5年度）77.7
			水田利用率（%）	（R2年度）101.9	（R5年度）104
2	有機JAS認証を取得している水田で作付けされた野菜	有機野菜作付助成（基幹）	取組面積（ha）	（R2年度）9.7	（R5年度）10.5
3	里芋	重点品目作付助成（基幹）	取組面積（ha）	（R2年度）10.3	（R5年度）14
4	野菜、花き・花木、果樹、その他作物	地域振興作物助成（基幹）	取組面積（ha）	（R2年度）73.8	（R5年度）76
5	野菜、花き・花木、果樹、その他作物	高収益作物等拡大加算（基幹作）	作付面積拡大（ha）	（R2年度）69.4	（R5年度）76